

2010年4月5日発行

Vol.49

ろ ん ど

長崎県音楽連盟事務局

〒850-0056 長崎市恵美須町4-5

NBC第3ビル2F

Tel.&Fax095-820-1081

ホームページアドレス <http://www.n-rond.jp>メールアドレス nma@onyx.dti.ne.jp

森 裕子/ピアノ (「長崎の演奏家たち」第三夜 3/11)

オーケストラの夢

地方都市に暮らしていて残念なことの一つは、プロのオーケストラの定期演奏会が聞けないことです。名曲コンサートや、オペラ・バレエの伴奏、あるいは学校等での啓蒙普及活動としてのオーケストラの役割もありますが、やはり指揮者も楽団員も音楽的な真剣勝負をするのは定期演奏会。東京のようにプロのオーケストラがたくさんあり、そのどれか一つの定期会員になってひとシーズンオーケストラと付き合い、必ず知らなかった名曲に出会うものです。時には、邦人の新作現代音楽が登場して戸惑うこともあります。演奏会の度に運命や新世界、それに未完成というのも感心しません。

日本フィルの九州公演が、35周年を迎えました。その間長崎では、佐世保、諫早、川棚と会場を移すことがあっても、一度も途切れることなく連続で演奏会を実施。本当に素晴らしいことです。現在は、ボランティア組織に衣替えをしているという事務局のご苦勞には、ただ頭が下がるばかりです。特に、「長崎日フィルの会」の代表である河野英雄さん、それに会発足当時はキャピキャピの大学生だった森裕子さんの働きがあってこそその継続で

しょう。日フィルが九州公演で取り上げてきた曲目は、観客動員に考慮しながら、それでも有名なピアノやヴァイオリン協奏曲を組み込み、指揮者の顔ぶれも多彩です。長崎らしく、ソリストに山口修さんを迎えギター協奏曲を入れ込んできたのは、会の功績の一つです。

地域とのふれ合いも重視してきた日フィルは、本公演の前に病院や学校での出前コンサート（かつては、オルグコンサートと呼ばれていましたが）も早い時期から重視してきました。「長崎の料理や釣り好きなオケマンは、すっかり長崎ファンになってしまって」と森さんはうれしそうに話しています。もちろんそれは、地元スタッフの心のこもったもてなしがあつてのことでしょう。

その彼女が久々、ピアニストとして表舞台に立った「長崎の演奏家達・第三夜」。いつもの笑顔を封印して、ブームスと話し込む彼女がいました。

新年度を迎える音楽連盟、オーケストラの夢、音楽の食通を大勢つくっていくのは、森さんをだけでなく、音楽連盟の大事な任務かもしれません。

(文：堀内 伊吹)